

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 41 2013年3月23日

目次

総会のお知らせ	1	匠の技	7
広報部から	2	ひとくちコラム	11
学術局から	2	各委員会・作業部会から	12
施設紹介	5	事務局から	16
臨床こぼれ話	6	理事会・委員会等報告	17

★★★ 一般社団法人千葉県言語聴覚士会 ★★★

★★★ 第2回総会のお知らせ ★★★

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第2回総会・平成25年度第1回研修会を5月19日（日）に開催いたします。

当会は、昨年5月に一般社団法人千葉県言語聴覚士会として千葉県言語聴覚士会を継承し、規則の整備等、会としての基盤を固めてきました。平成25年度は、一般社団法人として2年目を迎えるにあたり、会員のニーズにあった活動をさらに充実させていくとともに、一般市民への啓発を進めるための方策の1つとしてキャラクターの制定や、「言語聴覚の日」開催を予定しております。総会は今後の方向性を決める重要な場ですので、会員の皆様にご出席いただきますよう、お願いいたします。

総会後には第1回研修会を開催します。今回は、講師に日本大学歯学部摂食機能療法学講座で歯科医師をされております、戸原玄先生をお招きし、摂食・嚥下リハをテーマにご講演いただきます。戸原先生は多くの病院（歯科）で摂食・嚥下リハの環境を立ち上げ、複数の地域で訪問での摂食・嚥下リハを精力的に実施するなど、言語聴覚士との協働も実践していらっしゃいます。嚥下内視鏡検査（VE）による実際の検査場面をご覧いただくなど、貴重なお話を伺うことができる機会ですので、皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますよう、併せてお願いいたします。

日時：平成25年5月19日（日）

13：00～14：00 一般社団法人千葉県言語聴覚士会第2回総会

14：15～16：00 平成25年度 第1回研修会

16：10～17：00 懇親会

場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1・3講堂

○●○ 広報部から、お知らせ ○●○

『当会マスコットキャラクターについて、ご意見をお聞かせ下さい!』

本会では一般社団法人化を機に、マスコットキャラクターの作成をすすめております。『聞く』『話す』『読む』『書く』『食べる』など、言語聴覚療法（言語聴覚士）をイメージし、かつ千葉県の名産品を組み合わせてキャラクター化する予定です。このキャラクターを、本会の様々な活動に活用していきたいと思っております。近日中に、本会ホームページ上でこれらのキャラクターを公開いたします。パブリックコメント欄を1ヶ月間、設置しますので、会員の皆様のご意見やキャラクター名のご提案などございましたら、どしどしお寄せ下さい。

◇ 学術局から ◇

学術局 木下 亜紀、木村 知希

1. 平成25年度第1回研修会のお知らせ

今回は、講師に日本大学歯学部摂食機能療法学講座の歯科医師である戸原玄先生をお招きして、摂食・嚥下リハをテーマにご講演いただきます。戸原先生は多くの病院（歯科）で摂食・嚥下リハの環境を立ち上げながら、複数の地域で訪問での摂食・嚥下リハを精力的に実施し、言語聴覚士との協働を実践していらっしゃいます。今回は、嚥下内視鏡検査（VE）による実際の検査場面をご覧ください。

また、講演会後には、新入会員をお迎えし、懇親会を開きます。日頃の臨床に関する情報交換はもちろん、皆様にとりまして楽しく有意義な時間になりますことを願っております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘いあわせの上、ご参加ください。

*日時：平成25年5月19日（日） 14時15分～16時00分

*会場：千葉大学医学部附属病院3階 第1・3講堂（予定）

*内容

I. 講演会 [14:15～16:00] 第1講堂

「摂食・嚥下障害の評価と訓練の実際」

講師：日本大学歯学部摂食機能療法学講座 歯科医師 戸原 玄先生

II. 懇親会 [16:10～17:00] 第3講堂

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第3回研修会報告

平成25年1月20日（日）に千葉大学医学部附属病院で第3回研修会を開催しました。今回は、失語症と高次脳機能障害をテーマに症例検討会を行いました。その後、当研修会最大の4社の業者展示・販売がある廊下を通りながら部屋を移動し、発表者と講師を囲んで、日頃の臨床の悩みを共有しあう情報交換会を行いました。参加者は37名（会員30名、会員外7名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

演題：「中等度失語症と高次脳機能障害が合併した症例

ー生活保護を利用した独居生活に向けてー」

発表者：佐倉厚生園 佐藤 光 先生

概要：脳梗塞を発症し、失語症、注意障害、記憶低下等の高次脳機能障害を呈した症例に行なった独居生活に向けた取り組みについてご報告いただきました。症例は70代男性、上記障害を呈していたものの、ADLが自立レベルにあるため、介護保険等の公的支援が受けにくい状況でした。そのため、実際の生活場面での評価のために2度の外出訓練を実施。結果として要支援1を取得され、配食サービス等の公的支援を受けながら独居生活に至るまでの経緯が説明されました。また、症例報告後の質疑応答や情報交換会では、外出訓練、独居生活のための環境設定等について意見交換が行われました。

演題：「高次脳機能障害に環境が与える影響～神経ベーチェット病の1症例を通して～」

発表者：亀田クリニック 赤坂 麻衣子 先生

概要：神経ベーチェット病を発症し、高次脳機能障害を呈した症例に対する長期的な関わりについてご報告いただきました。症例は40代女性、神経ベーチェット病の再燃により、感覚性失語症、注意障害、記憶障害を中心とした高次脳機能障害を呈しました。更に脱抑制や易怒性などの精神症状も合併していたため、入院時より対応に難渋していました。退院後の環境により精神症状の変化が認められたことから、家族との情報共有を徹底することにより、症状の安定を促していった経過を丁寧にご説明いただきました。また、症例報告後の質疑応答や情報交換会では、他職種間の連携や、法的支援、家族との情報共有に関して等、竹中先生をはじめ多くの先生方と意見交換が行われました。

助言者・講師：我孫子市障害者福祉センター 言語聴覚士 竹中啓介 先生

演題：「重度の失語がある人とのコミュニケーション」

ご講義をはじめる前に助言者のお立場から、演題で報告されたお二人の症例について、①家族との情報共有が徹底されていた点、②長期的な関わりの中で臨機応変な対応ができていた点を良かった点として挙げられました。また、佐藤先生には「独居生活へ戻る際の評価や環境設定」に関して、赤坂先生には「他職種間の情報共有」に関してのご助言をいただきました。そして次に、日本コミュニケーション障害学会第38回学術講演会において、学会発表奨励賞を受賞された「重度の失語がある人とのコミュニケーションにおける対話者トレーニングの効果」についてご講義くださいました。講演では演題内容

に加え、重度失語症者のコミュニケーション促進として、実用性の高い代償的伝達手段についてや、会話パートナー派遣事業などについても詳しくご講演くださいました。また講演後の情報交換会にもご参加くださり、多くの先生方との意見交換が行われ、大変有益な機会となりました。

アンケート結果

①研修会に参加して（回収：24名）

とても良かった 20名、普通 4名、期待していた内容と異なった 0名

具体的に：

- ・竹中先生の研究に関しまして、大変興味深く聞かせていただきました。
- ・症例報告のスタイルはよいと思います。一人あたり20分でいいので、もう少し演題を増やしてもよいと思いました。
- ・退院時のADLなどの評価が具体的でわかりやすく、易怒性の対応方法のご教示も参考になりました。コミュニケーション方法については、まずは理解面への対応が大切ということ、コミュニケーションファイルの作成について具体例が示されとても勉強になりました。

②今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

- ・最新の研究や流れがわかるような内容だとうれしい。
- ・在宅でのリハビリについて、デイケア、デイサービスでのSTの取り組みがわかればよいです。ミキサー食など、在宅ではご家族はどのように作るのか。

学術局より＜研修会を終えて＞

今回の研修会は、症例検討会と情報交換会を行いました。ここ数年の発表ではSTの経験が5年未満の方が多く、若いSTの臨床に対する積極的な取り組みや、問題意識の高さが窺えます。発表者の方の「とても勉強になりました。」という感想を聞くと、このような場を継続することは、当会の必要な事業だと改めて実感致します。発表者のお二人、助言者の竹中先生、ありがとうございました。また、当日は4社の業者展示・販売がありました。参加者は嚥下食を試食したり、販売書籍を手にとったり、業者の方と意見交換をしたり、大変盛り上がりおりました。参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。

[研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。詳しくは当会ホームページにお問い合わせください。

3. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

施設紹介

医療法人社団真療会 野田病院・・・・・・・・・・・・・・・・ST 村上 茜

当院は、千葉県の北西部に位置する野田市にある197床の病院です。地域に根ざす病院として、入院（急性期・亜急性期・回復期・維持期）、外来、訪問、委託事業と様々な場面でリハビリテーションを提供しています。入院から在宅までと、患者様によっては長い期間関わるができる分、常に患者様のこれからを見据えたサービスの提供が求められます。その責任の重さを日々感じながら、毎日試行錯誤しています。約8年前にリハビリテーション室を増設し、徐々に業務やスタッフの人数の拡大を図り、現在はリハビリテーション科総勢45名（PT21名、OT17名、ST7名）の大所帯の科となりました。年齢も経験も様々で、色々な話題が同時に飛び交う賑やかなスタッフです。当院の言語療法部門の対象は脳血管疾患や廃用症候群の患者様が大半を占めています。日々の臨床に加え、歯科衛生士や栄養士など他職種との情報交換や院内への情報発信の他、システムの見直しや個々のスキルアップを目標に勉強会や症例検討会を開催するなど、個人単位から部門、科として一丸となって取り組んでいます。外来部門では、脳血管疾患に限らず、発達障害や機能性構音障害、小児～成人の吃音の患者様の受け入れ、外来でのVFも行っています。小児領域はまだ症例数が少ないため、今後更に積極的に受け入れていきたいと考えています。訪問部門では、ほぼすべてのSTが担当制で患者様の自宅に伺い、御本人指導や御家族指導を行っていますが、院内業務と兼務の為受け入れ数は限られてしまいます。解決すべき問題や、やるべきことは山積みですが、領域を問わず言語療法を受けられる、地域を支える病院としてこれからも臨床に励んでいきたいと考えています。

のぞみ牧場学園・・・・・・・・・・・・・・・・ST 大滝 理恵

当施設は、久留里線馬来田(まくだ)駅から3キロ、山間の一角に建つ児童発達支援センター(旧知的障害児施設)です。名前に牧場と付く通り、敷地内には猫や犬はもちろん、ポニー、ヤギ、羊、ミニブタ、モルモット、ウツコケイ、チャボが動き回っています。これらの動物は全てアニマルセラピーで活躍し、学園に通う子どもたちの大切な友だちです。

当施設には、保育士、音楽療法士、乗馬セラピーインストラクター、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士が常勤し、就学前の子どもたちの保育・療育にあたっています。

STは言語の個別指導やグループ指導を行う他、クラス担任として子どもたちと一緒に遊んだり、給食を食べたり、トレーニング等も行います。誕生会やクリスマス会等のイベントでは寸劇をすることもあります。療育場面だけでなく、日常の子どもたちと生活を共にすることで療育の般化を図り、子どもたちの好きなものを療育に取り入れることができるのは、大きな利点であると感じています。また、マカトンサインを日本に紹介した理事長津田望の下、スタッフが日常的にマカトンサインを使用し、子どもたちもマカトンサインでいろいろなことを伝えてくれたり、マカトンサインで学園歌など様々な歌を歌ったりしています。

尚、ただいまST募集中です。当施設にご興味のある方はご連絡いただければ幸いです。

〒292-0201 千葉県木更津市真里谷2374-1 TEL-0438-53-5222

臨床こぼれ話

★★★ 回復期より維持期へ想いを馳せて ★★★

七沢リハビリテーション病院言語科
堀田牧子

はじめまして。私は神奈川県厚木市の七沢という山奥で、猿や鹿に囲まれて 30 年近く臨床を続けている ST です。

長らく ST をやっていると、良いことも困ることも出てきます。困ることは、年々、若い患者さんと語彙が一致しなくなることです。この間も、突然「スイパラのタベホー」と言われ、面食らいました。トホホです。

良いことのひとつは、担当した患者さんの退院後の経過を、長期に渡って知ることができることです。私の所属する病院は回復期なので、外来で訓練を継続できる一部の方を除いて、多くの場合、退院後の様子を把握できず歯がゆい思いをします。でも、時折患者さんやご家族から手紙や電話をいただいたり、直接お会いする機会があったりして、お付き合いが長く続くことがあります。中には私が新人の時からずっとやりとりを続けていて、もはや同士のような関係に至った方もいらっしゃいます。少しずつ絵画の腕を上げ、立派な絵手紙を下さるようになった重度失語症の方、復職後に大変な思いをしながらなんとか定年まで勤め上げた失語症の方、復職はさっさと諦めてなぜか焼き芋屋さんになった方、中には若いお母さんの時に重度の構音障害になり、小学生の子供さんに受け入れてもらえなかったという辛いエピソードもありました（でも、その子供さんは成人して介護士の職を選んだのです！お母さんの姿をしっかり見ていたのですね）。みなさんのこうした山あり谷ありの人生の物語は、私にとって一つ一つが何にも変えがたい貴重な財産となっています。

こうした財産が増えるに従って痛感することは、患者さんやご家族が歩む退院後の長い道のりを考えると、私が担当する回復期はまだ旅の始まりだということです。私は、常にそのことを念頭に置いて、患者さんやご家族に関わりたいな、と思っています。退院の時期が近付くと、特にご家族は「リハビリが終わりになってしまう」「もう良くなるのか」と、不安を抱かれます。確かに病院での集中的な訓練は終了となりますが、これからそれぞれの方の生活を基盤とした長いリハビリテーションが始まります。改善についても、回復期ほど大幅ではないかもしれませんが、訓練によって症状に変化がみられることも稀ではありません。また、患者さんやご家族が「良くなる」と実感されるのは、メールが打てるようになった、レストランで注文ができるようになった、孫の名前が言えた、などの、検査では測れない具体的かつ個別的な事柄であることが多く、こうした体験は生活の中でこそ培われるのだと思います。回復期は、障害構造に基づいた機能的訓練によって効果が上がる時期です。でも同時に、言語、非言語行動を含めた全般的な行動の中で、患者さんのできることに目を向け、それを退院後の生活でどのように活かせるかを患者さんと一緒に考えることも大切だと思います。そして、ご家族をはじめ、様々な形で患者さんを支援する ST さんや介護スタッフの方に、うまくバトンを渡せたらいいな、と思っています。

匠の技

〇●〇 作業療法士における訪問リハビリの実際 ～実践編～ 〇●〇

セントケア訪問看護ステーション木更津：若月 美奈

ハートケアデイサービスセンター：松田 直美

千葉県言語聴覚士の皆様、こんにちは。先月号に引き続き、『作業療法士における訪問リハビリの実際』と題しまして、今回は『実践編』となります。実際に私達が利用者様と接している中で、実際に行っていることや、実施する中での評価ポイント等をお話させて頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

【はじめに】

訪問リハビリをはじめるには『病院・診療所など訪問リハビリ事業所』なのか『訪問看護ステーション』なのかによって制度が違います。しかし、実際の訪問ではPT・OT・STが行う内容に関しては違いがありません。

【1回の訪問の流れ】

さて私達は訪問して一体何をしているのでしょうか？？一回の訪問の流れを表してみたいと思います。

①入室 ↓ ↓ ↓	① <u>病院とは異なり利用者様の生活場所に入ることになります。</u> スリッパを必ず履く家など各家庭の習慣は様々であり、その家庭に応じた対応が求められます。出迎えて頂いた際には、利用者様・ご家族様の表情はどうか、顔色や体調は悪くなさそうかをチェックします。
②バイタル等 ↓ ↓ ↓	②バイタルチェック（呼吸・体温・血圧・脈・食事や水分量、排尿や便の状況、睡眠状況等）を行いながら、前回訪問時以降の出来事など生活状況の確認を行います。前回に指導したことが実践できているかもここで確認します。
③リハビリ ↓	③利用者様の状態や環境・要望に応じてリハビリを実施します。
④フィードバック ↓	④本日のフィードバック・次回までやってみること等を伝え記録をします。（場合により連携ノートに記載）
⑤退室 ↓	⑤ここで利用者様には聞かれずにご家族様だけに必要な話等をするともあります。
⑥帰社	⑥その後事業所に戻ったら、記録・情報交換や主治医・ケアマネージャ等他事業所との連携（電話・FAX）を利用者様に応じて行っています。

【視点や評価ポイント】

訪問リハビリで一番大事にしていることは、「意向（思い）」を知ることです。「意向（思い）」を誰が、何を、いつ、どこで、なぜしたいのか？どのように？の5W1Hを探っていきます。探ることで、真実の思いを確認することが出来てくると思います。リハビリの依頼を受けてから①『意向（思い）』の把握、②『意向（思い）』に基づいた動作の確認、③『意向（思い）』に対しての可能性の提示、④目標設定、⑤利用者様・ご家族様への説明・プログラムの立案、⑥利用者様への説明、具体的な支援といった流れで進めています。

ここで気をつけなければならないことは、リハビリの目標設定やプログラムの立案です。専門家としての評価がなく利用者様の『意向（思い）』だけをきいていても、利用者様の身体状況とあっていなければリハビリの効果はありません。またリハビリ職種側からの一方的な目標であっても、利用者様の思いとかけはなれていれば、こちらもリハビリの効果はありません。少しでも利用者様の身体状況と思いが近づくように目標設定をする。それには、利用者様との合意形成がなくてはならないのです。（図1）

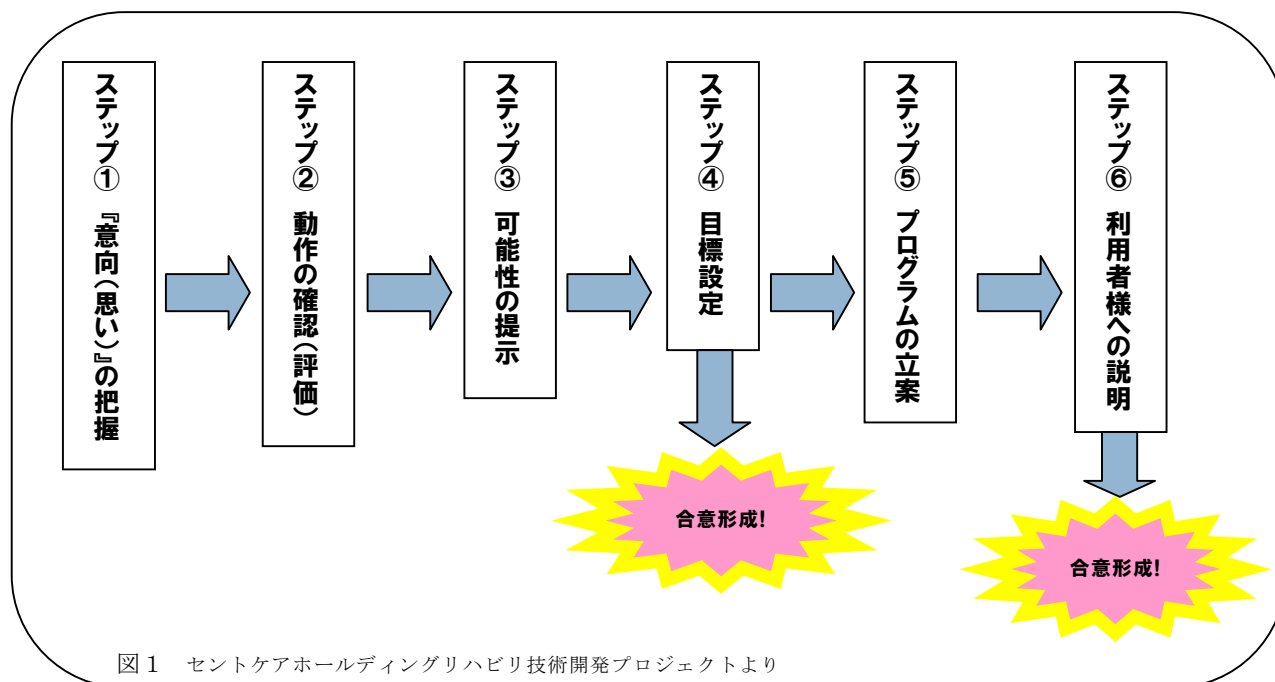


図1 セントケアホールディングリハビリ技術開発プロジェクトより

【訪問リハビリの利点】

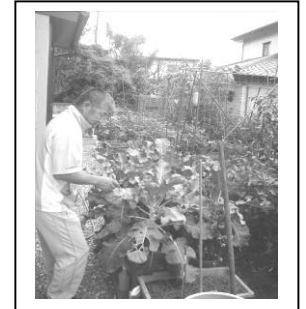
訪問リハビリの利点を、現在携わらせて頂いている利用者様に沿ってお話させていただきます。（利用者様への同意の下写真を掲載しております。）

<症例1：家だから出来る具体的な動作練習>

訪問リハビリは自宅という実際に生活している場でリハビリを行います。自宅でのトイレへの移動やお風呂の入り方、近所への買い物、趣味の畑仕事など、家族の介助量の軽減や利用者様の出来ることを増やしていく為に、より具体的な動作練習を行うことが出来ます。

Aさんは、67歳男性。脳挫傷により左片麻痺となり、左手を生活の中で使用することがありませんでした。そこで、生きがいでもある畑を行う時に、左手を使う機会を作りました。今では支柱など

を左手に持たせてあげれば、両手で支柱を立てることが出来るようになっていきます。このように日常生活の中で少しでも利用者様の力で出来ることを見つけ・増やしていくことが、利用者様にとってもご家族様にとっても重要であると思います。



<症例2：より生活しやすい空間づくりのアドバイス>

訪問リハビリでは、実際の生活空間を専門職種の目で確認することが出来ます。『ここに手摺りや印があれば1人で歩けるようになると思います。』といった利用者様・ご家族様が気付いていないちょっとしたポイントを発見することが出来、住環境の整備を行うことが出来ます。

Bさんは、69歳女性。脳梗塞による左片麻痺、高次脳機能障害（注意障害）を有しており、起居動作・食事以外は介助レベルでした。ご本人様より『一人でトイレに行きたい。』との希望があり、話を伺うと『一人で好きな時に排泄したい。』という思いであることがわかりました。幸い文字理解が良好であったBさんには、ポータブルトイレの自立を目標に、動作手順を書いて貼り、指差し確認しながら行えるようにすることで手順を統一しました。また安定した立位保持ができる足の位置に目印をつける等、環境の工夫を行いました。その結果、一人で排泄が出来るようになり本人も満足していました。

このような環境調整をするにあたり、同居家族の使いやすさ・訪問客への配慮・見栄えなども考慮し話し合いながら行っていく必要があると思われます。そうすることで利用者様・ご家族様に合わせたより生活しやすい空間づくりのアドバイスが出来ます。



<症例3：利用者様に合わせた目標設定で前向きにリハビリ>

訪問リハビリでは、利用者様・ご家族様と一緒に目標を決めて行きます。『自宅のお風呂に入れるようになりたい』など利用者様が実現したい具体的な目標を設定していくことが出来ます。また、具体的な目標が挙げられない方も、会話の中で模索・提案・実行していきながら具体化していくことも訪問リハビリの役割であると思います。

Cさんは、54歳女性。脳出血により右片麻痺がありますが、日常生活は自立・家事動作等も行え

るようになり、今後の目標としては家族の負担を軽減したいということでした。目標が漠然としており、何が出来たら良いのか利用者様・ご家族様と話し合いながら目標を具体化することから始まりました。将来的には「地域の活動（回覧板回し・草取り等）が出来たら」ということで、まずは自宅の草取りが、一人でも安全に出来るようになることを目標に、一緒に行ってい

きました。現在は、場所は限られていますが1人でも出来るようになり、ご家族様も楽になったと喜んでおられます。このように利用者様の思いを明確化し、目標設定することで利用者様もより前向きに生活出来るようになります。



<症例4：ご家族様・ヘルパーさんにもわかりやすい>

訪問リハビリでは、利用者様はもちろん一緒に生活している方や介護している方（ヘルパー等も含めて）も対象者です。

Dさんは、74歳男性。奥様と2人暮らし。脳梗塞で左片麻痺となり起居動作・食事以外は介助が必要な状態でした。当初訪問入浴を利用しておりましたが、ご本人様・奥様より『自宅のお風呂に入りたい。』との希望がありました。その為、奥様を交えて練習を重ね実際に入浴を行うことで、動作手順の理解・どのように声掛けや介助をしているのか目で見て習得することが出来ます。

その後、ヘルパーさんにも練習場面に同席してもらい引き継ぐことで、現在ではヘルパーさんと奥様で自宅のお風呂に入ることが出来るようになっていきます。

このように実際場面で行うことでわかりやすくなります。在宅生活を支えているご家族様・ヘルパーさん等の不安や負担が軽減し、安全な動作遂行が出来ればと思っています。



【まとめ】

いかがでしたでしょうか。私達自身もまだまだ学ぶことは沢山あり、一人では到底出来るわけではありません。様々な方と協力し連携を取りながら利用者様・ご家族様の望む暮らしに少しでも近づけられるように支援していければと考えています。利用者様は発症・受傷前の身体状態と違うことで、『自分は出来ない。やったことがない。』と生活の幅が狭まってしまっているのです。その為、訪問リハビリでは「きっかけ」を作り、利用者様の出来ることを少しずつ増やすお手伝いをする事で、利用者様が出来ることの喜びを見出し、その喜びが意欲向上に繋がればと思っています。

三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

前回のコラムでは、前庭水管拡大症の診断・症状についてご紹介しました。脳圧が高まることで聴力低下を引き起こす可能性のある内耳奇形の一つです。

前庭水管拡大症をご存知ですか？その2

前庭水管拡大症がある場合、どのようなことに注意するのですか？

⇒頭部に強い衝撃を受けないように、また、激しい回転運動を避けるようにします。

高い所から落ちて頭をぶつけた、野球で頭部にデッドボールを受けた等、頭部強打により聴力低下が起こり得ます。そのようなことがあった場合、すぐに普段聴力フォローを受けている病院で、聴力検査と診察を受ける必要があります。



もし聴力が低下した場合、どのような治療をするのですか？

⇒ステロイドの服薬や点滴による治療を行います。

治療により低下前の聴力まで改善する例もあれば、しない例もあります。また、治療の開始が遅れると治療効果が得られない場合もあります。聴力低下が疑われる場合できるだけ早く病院を受診する事が望ましいでしょう。

聴力低下があった場合迅速に対応できるよう、難聴がある方は定期的に聴力フォローを受け、検査・相談しておくことが大切です。

～聴覚障害委員会～



◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎リハビリテーション公開講座作業部会◎◎◎

第6回リハビリテーション公開講座報告

平成25年1月27日(日)、船橋市民文化創造館「きららホール」において、(一社)千葉県理学療法士会・(一社)千葉県作業療法士会、(一社)千葉県言語聴覚士会、リハ医学懇話会の共催で「第6回リハビリテーション公開講座」が開催されました。当日は参加者97名に加え、実行委員・ボランティアを合わせると、合計127名が集いました。

今年度は、『知っておきたい！！脳卒中とリハビリテーション』というメインテーマを設定し、「脳卒中ってどんな病気？～発症からリハビリテーションまで～」というタイトルで医学懇話会の村田淳先生に基調講演を行って頂きました。続いて、理学療法士会からは「脳卒中 急性期から始まる理学療法」、作業療法士会からは「作業が人を元気にする」、当県士会からは宇野 園子先生が、「ことばと食事のリハビリテーション」という演題でご講演くださいました。参加者からは、シンプルな動画を効果的に活用したプレゼンテーションだった、「豆まき」「成田山」などの季節のキーワードを、“唇や舌を使わないで話す”体験の工夫が面白かったなど、分かりやすく良かったという声が聞かれました。

講演終了後の質疑応答のコーナーでは、「医療と介護現場との連携に関すること」「身近な人が倒れた時、救急車が到着するまでしておくことは何？」など、切実な質問が寄せられました。またその応答では「救急隊員に聞かれた時に、かかり付け医を伝えることや、保険証などの準備も大切」など、病人への対応に迫られ、忘れがちな基本的な注意点を再認識することが出来ました。さらに、個別相談ブースでの当士会への相談者は2名で、宇野先生が丁寧にアドバイスをして下さいました。

今年度は、昨年度の実行委員会から出された反省点を踏まえ、さまざまな工夫を行った公開講座となりました。まず、「県内の各地を巡回する」といった点については、例年開催していた千葉市から船橋市に会場を移しました。また「利便性の高い会場を選ぶ」という点については、会場から駅まで通路で結ばれ、徒歩2分の場所を選択しました。「周知不足、広報方法の再検討」という点については、「地域新聞」への折り込み広告や地元船橋の無料情報誌5社、船橋市広報への広報掲載等、地域にスポットを当てる広報活動を通し周知を図りました。大会担当の情報保障については、「千葉聴覚障害センター」に要約筆記を依頼しました。今回は OHC を使用することで、筆記したものをカメラで写し提示するため、見やすく分かりやすかったと概ね好評を頂きました。また会場には磁気ループの設備があったり、情報保障についての理解や協力を求めるアナウンスを行ったり、更には公開講座終了後のアンケートにおいて、情報保障の反響を知る項目を入れるなど、前年度にプラスαの工夫をしました。

最後に各士会を紹介する展示コーナーには、当士会から成人・小児対象の“コミュニケーションブック”や、“摂食に関する資料”を準備しました。作業療法士会では、「ミラーボックス」の体験や、手作業を通してできる、素敵な箱なども紹介されておりました。ご協力頂いた多くの皆様に感謝致します。今後とも企画運営に関してのご意見・ご要望がありましたら、よろしくお願いいたします。

(神作 暁美 松本真紀 今井梨香 鈴木三樹子)

◎◎◎介護保険委員会◎◎◎

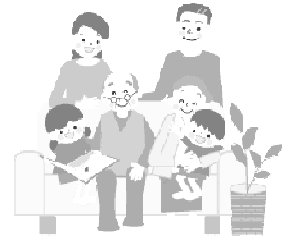
平成24年度 第2回介護保険委員会勉強会を終えて

平成24年12月16日、鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室にて、第2回介護保険委員会勉強会が開催され、県士会会員11名、会員外1名の計12名が参加しました。今回は「介護保険下でのSTの取り組み」をメインテーマに、4題の発表がありました。発表者と内容は以下の通りです。

○吉田浩滋氏（鎌ヶ谷市役所 障がい福祉課・千葉県言語聴覚士会 会長）

「行政から考える介護のこと 福祉からサービスへの転換」

介護保険制度導入後、今まで行政が主体であった福祉サービスの提供が、民間、企業に転換されたことにより、利用者側が様々な福祉サービスを選択できるようになりました。そのように介護保険のサービスが充実、拡大される中で専門職のあり方をお話いただきました。臨床家は「専門知識」のみならず、一般教養も高めていくことの重要性やその方策を、また言語聴覚士は利用者だけでなく、全スタッフに配慮した上で、介護保険サービスの発展に貢献していくような視点を持つことなどのお話を伺いました。更に行政の立場からのお話も伺うことが出来ました。



○松本真紀氏（言語デイスサービス ミカタ市川・ミカタ松戸）

「通所介護（デイスサービス）におけるSTの役割」

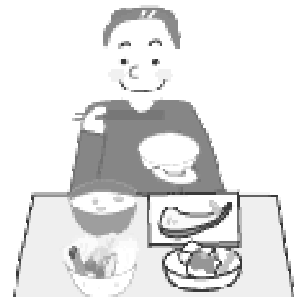
失語症をはじめとするコミュニケーション障害者を対象としたデイスサービスで働く言語聴覚士の立場から、①機能改善に向けたアプローチ、②利用者同士の実用的、実践的コミュニケーション活動の活性化を目指したりハビリテーションの提供についてお話ししました。また介護保険の全体像を把握した上で地域資源を活用し、他職種間と連携することや、失語症啓発活動計画についてご報告いたしました。



○平澤美枝子氏（介護老人保健施設 佐倉ホワイエ）

「老健における経口摂取への取り組みに対するSTの役割」

入所時に経管栄養であった10症例への経口摂取への取り組みと結果についてご報告いただきました。その中で、先行期の障害が主原因である症例が、嚥下機能評価と多職種からの情報をもとに改善の兆しを見逃さず訓練を開始することで、経口摂取、自力摂取が可能となった実践例の報告がありました。この報告を通し、先行期障害への取り組みの重要性を再認識いたしました。



○勝又綾子氏（緑が丘訪問看護ステーション）

「訪問言語訓練で買い物援助を行った症例に対する報告」

言語聴覚士による訪問リハビリテーションの現状と看護師との連携状況、またリハビリ拒否という困難事例に対する取り組みについての発表をいただきました。普段の生活の中で「買い物」という困りごとを解決する過程を通じての訓練は、日常生活に寄り添える生活期リハビリの特性を生かせる取り組みとして興味深い報告でした。



1 題の発表ごとに質疑応答が活発になされ、その内容をより深く把握することができました。また、勉強会申し込み時に会員の皆様から、業務に関しての相談・お困り事などを事前にいただき、今回の勉強会でお互いの意見を出し合う事で、解決の糸口を探ることが出来ました。参加人数は多くはありませんでしたが、密な勉強会となりました。介護保険下で働く言語聴覚士はまだ少数ですが、こうした勉強会に参加することでつながりができ、新たな知識を得ることができます。皆様のご参加をお待ちしております。



（松本真紀）

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成24年度『生涯学習プログラム基礎講座・専門講座』千葉県版を実施

今年度の講座は平成24年11月18日・25日の2日間、千葉市民会館で行われました。

基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と当県士会が独自で企画した1講座（「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸先生）の合わせて7講座、専門講座は2講座（「発達障害児への支援－障害特性を踏まえたアプローチ」石田 宏代先生、「神経心理学の画像診断－失語症を中心に－」田川 皓一先生）でした。

なお、基礎講座の講師は千葉県内で活躍している言語聴覚士の方々に担当していただきました。

「神経心理学の画像診断」田川 皓一先生

当県士会が独自で企画した講座では、講師の小嶋先生がご自身の貴重な経験を基に、楽しくかつ分かり易く「言語聴覚士に必要とされる10項目の心得」をご講義くださいました。

今年度も基礎講座の受講者が増え、定員を超える希望者がありました。まだ経験の浅い言語聴覚士の皆様が臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。

参加者は総数268名（基礎講座198名、専門講座70名）で、5割は県外からの参加の方々でした。



来年度は平成25年11月17日（日）基礎講座、11月24日（日）基礎講座・専門講座を千葉市民会館で実施することが決定しています。また、認定言語聴覚士の受講資格（専門講座終了者）にも関わっております。是非、皆様の参加をお待ちしています。

（齊藤 公人）

◎◎◎聴覚障害委員会◎◎◎

軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成制度をご存知ですか？

平成24年4月より、千葉県内では身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中等度難聴児を対象に、きこえの確保、言語・社会性の発達の支援を目的とした、補聴器購入費の助成が始まっています。

○助成対象者

- ・身体障害者手帳の交付対象とならない18歳未満の方
- ・両側の聴力レベルが、原則30dB以上70dB未満の方
- ・補聴器の装用が必要と医師に判断された方

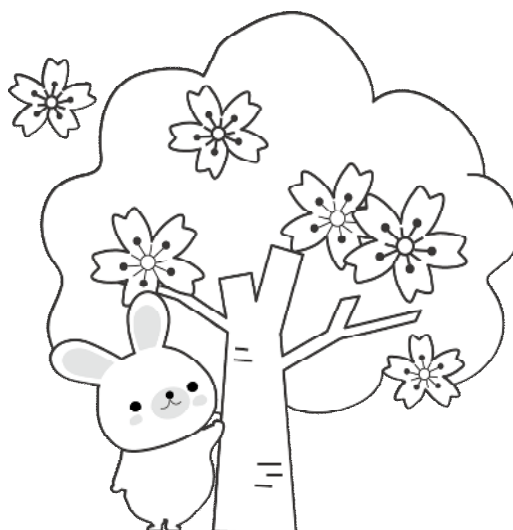
○助成対象

- ・補聴器・イヤーマールド・FMシステム等（修理は対象外）

○助成額


- ・難聴の程度により定められた基準額の範囲内で、購入費用の3分の2

☆市町村ごとに実際の助成制度の運用開始の時期は異なります。内容の詳細につきましては、各市町村へ直接お問い合わせください。



◇ 事務局から ◇

年会費自動引落のご案内

財務部より 

ゆうちょ銀行口座からの年会費自動引落サービスのご利用をお願い申し上げます。

自動引落サービスでは、毎年、**3月15日**に次年度分の年会費（正会員 3500 円、準会員 3000 円）が指定のゆうちょ銀行口座から自動的に引落とされます。

*年会費自動引落のメリット

1. 郵便局に振込みに行く手間が省けます
2. 払い込み忘れや二重納入を防げます
3. 手数料が安くなります（手数料 25 円）

未納分のある方につきましては、その時点で未納分も含めて引落しさせていただきます。

退会された場合には、次年度以降の年会費は引落しされませんのでご安心ください。

詳細は、県士会ニュース No40 の同封資料をご参照ください。

今、お手続きをされた場合は、平成26年3月15日より自動引落しが開始されます。

以上 

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにて入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

3. リーフレットの配布

当会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。

また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

4. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員 344 名・準会員 17 名・賛助会員：7 団体

（平成 25 年 1 月 13 日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

石川 あゆみ（船橋市立リハビリテーション病院）

吉山 晋平（茂原中央病院）

・・・賛助会員・・・

日東ベスト株式会社

◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成 24 年度 理事会

《第 6 回》

日時：2012 年 11 月 23 日（金）13 時 05 分～17 時 00 分 場所：千葉市蘇我勤労市民プラザ 3 階第 1 講習室

出席者：吉田、木下、相楽、鈴木、古川、宮下（以上理事 6 名）

1. 協議事項：・理事会、局等の議事録承認について

・新入会員・退会者について ・ニュース No. 40 について ・都道府県士会協議会について ・規則について ・理事
会議事録作成 ・講師料等支払規則（案） ・リハ公開講座予算書・実施要領の進行、次年度開催場所について ・第 3
回千葉県訪問リハビリテーション実務者研修会開催について ・後援申請について ・勉強会の案内について ・小児領
域他職種との連携について ・生涯学習プログラム講師について

2. 報告事項：・「回覧郵便物一覧」 ・千葉県脳卒中連携意見交換会

《第 7 回》

日時：2012 年 12 月 23 日（日）13 時 00 分～16 時 15 分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、石橋、木下、木村、相良、鈴木、古川、宮下（以上理事 8 名）、竹中（監事）

1. 協議事項：・理事会、局・部・委員会等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・関連 10 団体の災
害時研修について ・平成 25 年度「言語聴覚の日」について ・規則について ・リハビリテーション公開講座実行委
員会設置要領・会計マニュアルについて ・年賀状について ・吃音勉強会について ・社会局打ち合わせ報告について ・
ニュース郵送料の支払いについて ・その他：県士会シンボルマークについて ・年会費未納者について ・平成 24 年
度決算スケジュールについて ・講師謝礼金の復興特別所得税について ・失語症友の会からの依頼について ・内規 一
般社団法人千葉県言語聴覚士理事会議事録作成について

2. 報告事項：・回覧郵便物

《第 8 回》

日時：2013 年 1 月 13 日（日）13 時 00 分～16 時 45 分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、石橋、木下、木村、相楽、古川、宮下（以上理事 7 名）、岩本（監事）

1. 協議事項：・理事会、局・部・委員会等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・平成25年度「言語聴覚の日について」 ・総会について ・次期理事、監事について ・平成25年度第1回研修会について ・平成25年年賀状について ・総会規則について ・情報公開規則について ・入会申込書・変更届・退会届について ・ニュースNo41について ・銀行口座について ・ホームページの設立趣意書と紹介文の改訂について ・軽・中等度難聴児の補聴器助成のHP掲載について

2. 報告事項：・回覧郵便物 ・一般社団法人千葉県病院薬剤師会法人化祝賀会報告 ・脳卒中連携意見交換会について
《第9回》

日時：2013年2月17日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、石橋、木下、木村、相楽、鈴木、古川、宮下（以上理事8名）、竹中（監事）

1. 協議事項：・理事会、局・部・委員会等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・平成25年度言語聴覚の日について ・議案書について ・ニュースNo41について ・来年度のリハビリテーション公開講座について ・学術局：今年度反省・次年度計画について ・小児言語障害委員会：今年度反省・次年度計画について ・平成24年度第3回研修会報告 ・平成25年度第1回研修会案内状について ・規則（総会など）や入会申込書などについて ・失語症手帳送料への対応について ・キャラクターについて ・情報公開規則について

2. 報告事項：・回覧郵便物 ・茨城県言語聴覚士会十周年祝賀会 ・千葉県地域リハビリテーション協議会報告 ・大規模災害リハビリテーション対応マニュアル

◆ 平成24年度 学術局

《第4回》

日時：2012年11月11日（日）10時00分～11時10分 場所：プラザ菜の花2階 サークル室A

出席者：木下、木村、荒木、家永、神作、酒井、山本

第3回研修会スケジュールの確認と役割分担、今年度反省、次年度計画案作成への案など、今後の予定

《第5回》

日時：2013年1月20日（日）17時30分～18時00分 場所：千葉大学医学部附属病院 第1講堂

出席者：木下、木村、荒木、神作、酒井、佐藤、山本

第3回研修会反省、今年度反省、次年度計画案作成について、資料集作成について、その他、今後の予定

◆ 平成24年度 社会局渉外部

《第1回》

日時：2012年7月8日（日）12時30分～14時30分 場所：千葉大学付属病院医学部講堂

出席者：斉藤、常田、鈴木

・渉外部の分掌規定 ・新着情報周知等

《第2回》

日時：2013年 2月10日（日）10時00分～11時30分 場所：千葉スターバックス

出席者：・斉藤、常田、鈴木

・今年度報告 ・次年度計画等

◆ 平成24年度 小児言語障害委員会

《第3回》

日時：2013年1月13日（日） 10時00分～10時50分 場所：ジョナサン千葉駅前店

出席者：藤田、金子、常光、木下

今年度反省について、次年度計画について、今後の予定

◆ 平成24年度 介護保険委員会

《第4回》

日時：2012年12月16（日）16時30分～17時00分 場所：鎌ケ谷市総合福祉保健センター 4階研修室

出席者：平澤、小野、松本、蝶野、木村

・第2回勉強会についての反省会 ・来年度の委員について

《第5回》

日時：2013年2月8日（金） 19時30分～22時00分 場所：サイゼリヤ柏6号店

出席者：平澤、坪木、松本、木村

・平成24年度活動報告について ・平成25年度活動計画案について ・来年度の委員について

◆ 平成24年度 聴覚障害委員会

《第4回》

日時：2012年10月21日（日）14時00分～16時00分 場所：千葉市療育センター やまびこルーム

出席者：常田、高橋、新川、黒谷、猪野（勉強会補助）

・勉強会内容 勉強会報告、コラムについて

《第5回》

日時：2013年1月20日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉大学医学部附属病院 第2講堂

出席者：常田、高橋、黒谷、新川、宮下

・ニュースに掲載する内容について ・今年度会計について ・次年度の活動計画について ・次年度の役割分担について
・次年度の委員会開催時期について

◆ 平成24年度 組織検討委員会

《第1回》

日時：2012年12月9日（日）9時30分～11時00分 場所：常盤平駅前ドトール

出席者：平山、吉田

・組織検討委員会の継続について ・会議費について ・渉外部と地域連携

《第2回》

日時：2013年1月20日（日）9時30分～11時00分 場所：常盤平駅前ドトール

出席者：平山、吉田

・会議費について ・地域連携部と渉外部の統合の可能性について ・ホームページ経由の相談について ・来年度の組織検討委員会について

◆ 平成24年度 高次脳機能障害委員会

《第2回》

日時：2012年9月9日（日）17時00分～19時00分 場所：八千代リハビリテーション病院

出席者：大内、鈴木、治田、平井、竜崎、石橋

・第2回研修会について ・高次脳機能障害者の就労支援アンケートについて

《第3回》

日時：2012年11月4日（日）10時00分～12時00分 場所：新八千代病院

出席者：大内、鈴木、治田、平井、竜崎、石橋

・アンケート結果報告書について ・HPの認知教材集の更新について

◆ 平成24年度第6回リハビリテーション公開講座

《第5回》

日時：2012年11月12日（月）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：高橋、栗田、塩月、坂田、金子、石橋、神作、今井、松本

・後援申請・講師依頼・会場運営・情報保障・広報・実施要領会計マニュアル・アンケート等

《第6回》

日時：2012年12月5日（月）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：田中、高橋、栗田、坂田、金子、石橋、中頭、神作、鈴木、今井、松本

・実施要領・広報・会場設営・ボランティア・次年度開催地等

《第7回》

日時：2013年1月10日（木）19時00分～21時50分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：田中、塩月、栗田、高橋、坂田、金子、石橋、中頭、鈴木、神作、松本 今井

・各係進行状況報告（タイムスケジュール・受付・各士会展示・相談コーナー等） ・次年度について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

日東ベストは、病院・施設向けのやさらか食を作っています



SG(エスジー)なめらかトマト

冷凍食品メーカー初取得！
「特別用途食品
えん下困難者用食品 許可基準Ⅱ」



規格：300g×20袋
保存：冷凍

同シリーズ
トマトの園味を
生かしたゼリー



SG スムースグルメ

(全19品)





ホスピタグルメ

(全52品)
エネルギーバランス
よく
消化にやさしい





日東ベスト株式会社

本社：山形県寒河江市幸町4-27 電話0237-86-2100
健康事業部：千葉県船橋市習志野4-7-1 電話047-477-0487
URL <http://www.nittobest.co.jp/>

言語訓練用絵カード

ActCard[®] (アクトカード)

新製品

第3巻 情報カードサイズ(75mm×125mm) 動詞絵カード300枚組 (ActVoice[®]対応) **18,900円**

3巻は基本的な動作絵を集めました。多くの絵カードは幼児～学童の構音訓練や語彙指導等にも使用可能です。

第1巻 情報カードサイズ(75mm×125mm) 名詞絵カード300枚組 (ActVoice[®]対応) **18,900円**

第2巻 情報カードサイズ(75mm×125mm) 名詞絵カード300枚組 (ActVoice[®]対応) **18,900円**

失語症の言語訓練を目的とした名詞絵カードで、2巻より1巻の方がよりやさしい語彙です。

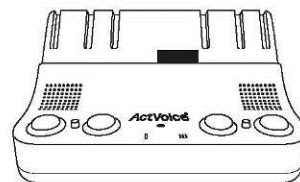
多機能言語訓練装置

ActVoice[®] (アクトボイス)

(ActCard[®]対応) **39,900円**

言語聴覚士による絵カードを使用した言語訓練や失語症者自身による言語訓練を補助します。カードをセットし、ヒントボタン、答えボタンを押すと各音声再生されます。貸出用のデモ機を用意しています。

開発協力 村西幸代 古川大輔 国保直営総合病院 君津中央病院 言語聴覚士
黒岩眞吾 千葉大学 大学院 融合科学研究科 情報科学専攻 教授



楽しく学ぶ日常生活絵カード

作：石田さとみ

S(スタンダード) はがきサイズ 160枚組 **4,725円** ISBN978-4-900851-60-3

支援者セット はがきサイズ 160枚組 **9,975円**

「S」より厚紙・PP加工により耐久性に優れ、保管用のケースが付属します。

家庭や学校などの日常生活場面で必要な活動や感情表出などの支援のために制作されました。
ご家族や先生方、お子さん自らのコミュニケーション支援ツールとしてお使い頂けます。

失語症の方のための 言語訓練帳

著：山本弘子 編：NPO法人全国失語症友の会連合会

A4判 32頁 **840円** ISBN978-4-900851-61-0

この本は、失語症になられた方が「書くこと」、「読むこと」を毎日続けることによって、表現する力を取り戻すお手伝いをするための本です。「初級編：まず書くことに慣れる」「中級編：自分の歴史・情報を整理する」というように、ご自身のペースにあわせて、ステップアップしながらトレーニング。

新製品

近日発売予定

詳細はホームページにて！

・認知症コミュニケーションスクリーニング検査 (3月発売予定)

3月開設！ 木製教材コーナー

障がい児に使って頂きたい木製教材を販売します。

価格は全て消費税込みです。



株式会社 エスコアール

<http://escor.co.jp>

TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

●上記の商品はホームページからもお求めいただけます。 〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

マウスピュア® シリーズ 口の機能を取り戻すために

唾液分泌
促進

清掃

保湿

口腔
マッサージ

マウスピュア®

有効成分（グリチルリチン酸二カリウム）配合
湿潤剤（ヒアルロン酸Na）（濃グリセリン）配合

医薬部外品
薬用歯磨き
梅風味

40 g 希望小売価格 1,470 円



マウスピュア® シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引＋歯みがき / 吸引＋口腔清掃
「吸引歯ブラシ」「吸引スポンジ」



口腔清掃
「口腔ケアスポンジ」



アイスマッサージ
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃
「フレッシュメイト K」

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

川本産業株式会社

本社 / 大阪市中央区糸屋町 2 丁目 4 番 1 号

●お客様相談窓口 ☎ 06-6943-8956 (10:00~17:00 月～金 ただし祝祭日を除く)

●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は

マーケティング本部 ☎ 06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

一般社団法人設立 おめでとうございます

株式会社 三和化学研究所

水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れるインスタントゼリーの素

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

アップル
味

クイックゼリー

ピーチ
味

クイックゼリー



「ひとくちめ」から
幅広く
サポートします。



製品1袋に水100mL混ぜるだけで、水分補給ゼリーが作れます。
水分だけでなく、電解質と食物繊維2.3gも補給できます。

包装単位: 10g×36

ビタミン補給に Quick Jelly Vit

クイックゼリー-Vit

レモン
味

クイックゼリー



製品1袋に水50mL混ぜるだけで、
ビタミン13種&亜鉛・銅補給ゼリーが作れます。

包装単位: 5g×36

カプサイシン入りフィルム状食品

カプサイシンプラス[®]

カプサイシンの力で食事を楽しく!

カプサイシンは、
トウガラシ(唐辛子)
の成分です。



2枚で1.5 μ g
(0.75 μ g/枚)の
カプサイシンが
摂取できます。



U字の切れ込みが
入っています。

マンゴー味

包装: 24枚×10
賞味期限: 18ヵ月

舌の上で
すばやく
溶けます。



販売者
株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

入 リオネット補聴器

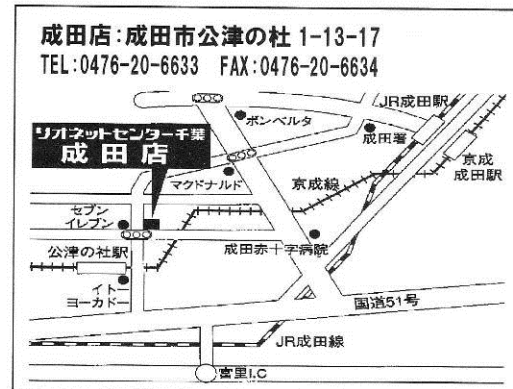
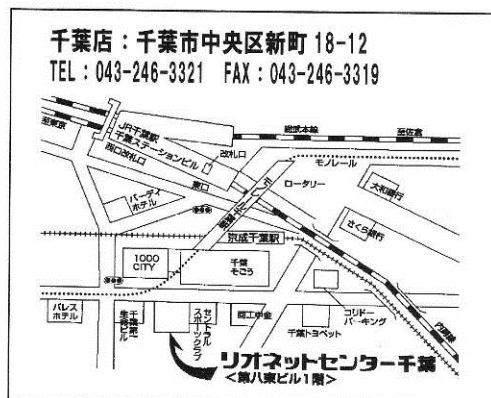
補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。

● 認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉



発行所：一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人：吉田 浩滋

編集人：編集部 古川 大輔

事務局：〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

印刷：社会福祉法人 大成会 成田市のぞみの園

